

学生は短期語学研修参加によって何を得ているか ー長崎大学韓国語研修を事例としてー

松本久美子

キーワード：グローバル人財育成 短期語学研修 効果

はじめに

日本学生支援機構（JASSO）が2011年度に留学生支援制度による3か月未満の海外研修の助成を開始したこともあり、高等教育機関では特に1か月未満の短期派遣プログラムによる海外留学生数が増加している¹。長崎大学では日本人学生の派遣プログラムとして2006年度に単位認定を伴った短期語学研修が開始され、現在、教養科目の英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語（3週間から4週間）が実施されている。それぞれ実施形態が異なっているが、韓国語の場合、長崎大学用のテラーメイドのコースではなく、この研修実施のために新たに学術交流協定を結び、2007年8月から毎年ソウルの協定校の持つ語学課程（夏季短期課程：3週間）に交換留学枠を使用して学生を派遣している。本稿では筆者が担当している韓国語研修を事例として取り上げ、グローバル人財育成の視点から、質問紙調査の結果をもとに、研修に参加した学生が3週間の語学研修を通じて具体的に何を得たと感じているのかを分析し、その効果を検証する。

1. 韓国語研修の目的と概要

韓国語研修の目的は、①実践的な語学力を養うとともに、韓国及びその文化に対する理解を深める、②現地での交流を通して視野を広げ、多様なものの見方や異なるものを受け入れる柔軟性を身につける、③留学の機会を逸していた学生にその機会を与える、④1年間の交換留学への足掛かりとする、が挙げられる。このように、研修の目的は語学力の向上だけでなく、学生に国際社会で生きていくために必要とされる多様性を受け入れる姿勢と多面的なものの見方を身に付けさせ、積極性を育み、その成長を促すことにある。

また、これらを通して大学の国際化に資することも目的としている。そのため、韓国語研修を始めるにあたっては、複数の大学から派遣先の大学を策定し、協定を結ぶ際には交換留学枠が夏期語学研修にも適用されるよう覚書を交わしており、1年間2名の枠を夏期語学研修では8名まで交換留学として認められる。また、交換留学枠外で参加した学生も交換留学生として遇される。研修の対象者は教養必修科目である「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修済みの学生で、研修先が実施するプレースメントテストの結果、指定されたレベルに配置され所定の成績を収めた場合、「韓国語Ⅳ」の単位として認定される。

学生が参加する協定校の夏季短期課程²は毎年日本やその他の国から150人程の参加がある。期間は3週間で、午前中が韓国語の授業、午後が文化に関するクラスで、1クラス15人以下、韓国文化体験のための課外授業も実施される。また、学生一人一人にチューターが配置される。

2. 研究方法

韓国語研修では第1回（2007年8月）から研修前と研修終了後に参加者全員に対して質問紙調査を実施しているが、第5回から単位認定レベルの変更³が行われたため、本稿では同じ条件で研修が行われた第5回研修（2011年度9月：12名）と第6回研修（2012年度9月：21名）を調査対象とし、それぞれの研修後に実施した質問紙調査（資料参照）の結果を分析の対象とした。回収率は第5回については100%、第6回については85.7%（21名中18名が回答）で、合計30名から回答が得られた。質問紙は5件法（全くそう思わない：1点～非常にそう思う：5点）、および自由記述で回答させた。調査対象となった研修参加者は全員学部2年生で、1年次に「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を、2年前期に「韓国語Ⅲ」を履修済みの学生である。第5回、第6回とも全員が単位認定対象レベルで研修を受け、「韓国語Ⅳ」の単位を取得している。

3. 結果と考察

質問紙の中から今回の研究の対象となる項目を選定し、集計を行った。まず、5件法による質問項目から研修に対する学生の満足度等を把握したうえで、自由記述による回答を分析し、参加者にどのような意識変容が起こっているのかを具体的に見ていくこととする。

3-1. 5件法による回答

まず、質問紙の中から研修の全体評価に当たる3つの設問について見ていく。

- ① 研修参加前に期待していたことは達成されたか。
5 (15名) 4 (12名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (0名)
- ② この研修に参加することは価値がある／参加してよかったと思うか。
5 (28名) 4 (1名) 3 (1名) 2 (0名) 1 (0名)
- ③ この研修を他の学生に推薦できるか。
5 (27名) 4 (2名) 3 (0名) 2 (1名) 1 (0名)

3つの設問全てに対して、90%以上の学生が4以上の高評価をしている。このことから、参加者の研修に対する満足度の高さがうかがえる。また、「どうしてそう思うか」という自由記述による回答で理由として多く挙げられていたのは、「韓国語でのコミュニケーション能力が身についた」「積極的になった」「自分の気持ちをうまく／はっきり伝えることができるようになった」「文化の違いを肌で感じることができた」「日本の文化を改めて見直すきっかけになった」「語学・生活両面で自信がついた」「問題解決能力がついた」「モチベーションの向上」「違いを受け入れることの大切さがわかった」「友人が増えた」「韓国が好きになった」「家族や友達の大切さがわかった」である。否定的な評価(2名)の理由として挙げられていたのは、「思ったほど韓国語が伸びなかった」「人間関係が面倒だった」である。

次に、研修目的と照らし合わせながら、参加者の評価を見ていく。

まず、「実践的な語学力を養うとともに、韓国及びその文化に対する理解を深める」という目的について関連する設問は以下の2つである。

- ① 韓国語が上達したと思うか。
5 (22名) 4 (8名) 3 (0名) 2 (0名) 1 (0名)
- ② 韓国や韓国文化に対する理解が深まったと思うか
5 (20名) 4 (9名) 3 (0名) 2 (1名) 1 (0名)

韓国語の上達については30名全員が4以上の評価をしている。研修の全体評価①で「思ったほど韓国語が伸びなかった」とコメントした学生も、ここでは4以上の評価をしており、①の否定的な評価は、上達したとは思っているのだが、参加前の期待度が非常に高かったため、そこまでには達しなかつ

たということを示していたことがわかる。また、韓国や韓国文化理解に関する設問についても1名を除き、4以上の評価をしており、参加者の満足度の高さがうかがえる。

次に、「現地での交流を通して視野を広げ、多様なものの見方や異なるものを受け入れる柔軟性を身につける」という目的について関連する設問は以下の3つである。

① 視野が広がったと思うか。

5 (24名) 4 (3名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (1名)

② 自分自身を振り返ったり将来を考えたりする機会になったか。

5 (18名) 4 (9名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)

③ 日本や日本文化を見直す（新たな視点で見る）きっかけになったか。

5 (10名) 4 (7名) 3 (1名) 2 (0名) 1 (0名)

3つ目の設問については2012年度に新たに追加した項目で、2012年度参加者18名のみの回答となる。3つの設問とも、90%以上が4以上の高い評価であった。

以上のように、参加者ほぼ全員が韓国語の上達、韓国文化理解、視野の広がり等、様々な研修効果を実感していることが見て取れる。

3-2. 自由記述による回答

次に自由記述の部分から、参加者にどのような意識変容が起こっているのかを、「気づきと学び」をキーワードに具体的に見ていくこととする。

3-2-1. 気づきと学び：韓国（韓国人）に対するイメージの変化

研修参加前の調査では韓国（韓国人）に対するイメージは二つのタイプに分かれていた。一つはマスコミの報道の影響によって形成されたと思われるマイナスイメージである。2011年度・2012年度研修とも従軍慰安婦問題や竹島問題がマスコミに大きく取り上げられおり、特に2012年度は研修に参加するにあたって反日運動に対する不安を抱えている参加者が18名中14名と多数存在した。マスコミによる報道によって韓国の反日イメージが増幅され、不安や恐怖心が生じ、それによって韓国に対するマイナスイメージが形成されていたようである。もう一つは少数派ではあるが、いわゆる韓流ブーム（ドラマ・歌）や韓国人留学生との交流等によって形成されたプラスイメージを

持つグループである。

研修後、「研修参加前の韓国／韓国人に対するイメージと今では何か変わった部分がありますか。」という設問に対して、2012年度では18名中13名が韓国人に対するイメージの変化（マイナスからプラスへ）」について記述している。4名はプラスイメージのまま、もしくはプラスイメージが強化されたことについて述べており、残り1名がマイナスイメージからプラスマイナスゼロへの変化であった。

人ではなく、韓国の環境に関するイメージについての記述も4件あり、これはレストラン（食堂）の衛生面に関するマイナスの記述が3件、ネット環境に関するプラスの記述が1件である。

以下は韓国人に対するイメージの変化に関する学生の自由記述からそのまま抜粋したものである。

- ・参加前は竹島問題が大騒ぎになっているときで、オリンピックにもあったように、韓国人は自分たちの領土を強く主張・行動し、とても怖いイメージがついていました。しかし、実際に現地で人に触れることで、優しさをたくさん知ることができました。地下鉄でも、一人でいる私におばあさんが話しかけてくれたり、改札で通れなくて困っている私が日本人とわかっていながらも助けてくれたりと私が出会った人々はみんないい人ばかりでした。
- ・竹島などの問題などで韓国人との接触はあまり行いたくはなかったが、実際はすごく親切な人ばかりだった。
- ・韓国人は気が強いというイメージだったが実際はとても親切で優しかった。
- ・韓国人は愛想がないイメージだったが、一生懸命韓国語を話そうとすると、相手も一生懸命聞いてくれたので暖かいイメージになった。
- ・韓国人は早口で怒っているように話すイメージがあったけど、実際はみんながそうではなかった。反日が心配だったけど、実際は日本語で挨拶してくれたり、日本語ギャグをしてくれたりで、とても優しい人ばかりだった。
- ・竹島問題で両国の関係があまり良くない状況の中での留学であったために、とても心配していた。しかし、地下鉄や町でわからないことがあって韓国人の方に尋ねたとき、本当に皆さん優しく丁寧に教えてくれた。韓国人は日本人に対して少し冷たい部分があるのではないかと思っていたが、本当に親切にしてもらい、とても嬉しかった。

- ・ ほぼ変わっていない。ただ唯一変わったとすれば、韓国人の男性の人はとても心が強いイメージだったのだが、とても繊細な人が多いということを知った。
- ・ 韓国人の友達がいたので、韓国人に対しては良いイメージを持っていたけど、今回の研修を通して、更にようになった。
- ・ 実際には親切な人が多かったが、反日の人もいる。

以上の記述からも、研修参加者はチューター（トウミ）⁴の韓国人学生との交流やキャンパス外での現地の人との出会いなどの実体験を通して、ステレオタイプや偏見に関する気づきが生まれ、自身の持っていた韓国人に対するイメージが大なり小なり変化していることがわかる。

3-2-2. 気づきと学び：自分自身の変化

質問紙の中で自分自身の変化に関係する2つの設問、「留学したからこそ体験できた／実感した／気づいたと思うことは何ですか。」「この研修に参加して、あなた自身の考え方や行動/態度で変化したと思うことがありますか。それはどんなことですか。」に対する自由記述の内容は大きく4つに分類された。それぞれのグループを①積極性、②視野の広がり（柔軟性）、③発想の転換（前向きな姿勢）、④次の一步、と命名した。自分自身の変化に関してマイナスの記述をした学生はいなかった。

以下に、それぞれに該当すると考えられる自由記述をそのまま抜粋したものを示し、その内容について考察を加える。

①積極性

- ・ 私は自分から積極的に人に尋ねたりすることが恥ずかしく苦手でした。しかし、韓国人は小さなことでもすぐに人に尋ねます。私はその姿に強くあこがれ、研修で自分も積極的に人に尋ね、感情をうまく表現できるようになりたいと思っていました。実際に研修に参加して周りの環境もあり、日に日に自分から尋ねたり感情の表現ができるようになり、充実した毎日を送ることができました。
- ・ 韓国へ行く前は何に対しても消極的だったのが、この3週間で“自分の気持ちをはっきり伝える”ということができるようになりました。

- ・積極性と行動力の必要性を感じた。したいことをするという事。
- ・積極的に自分から求めていかなければ、機会のはめぐってこないということ
を学んだ。
- ・授業を通して“恥ずかしがることなく自分の意見を発表する”ことが大事
だと思った。研修に参加する前よりも自分の意見をしっかり持てるようにな
ったと思う。
- ・積極的に話しかけて思ってることを伝えることができるようになったと思
う。
- ・人見知りが少しは改善されたと思う。他の学校の子とかにも積極的に話し
かけたりした。

研修参加前の調査でも、「引っ込み思案」「消極的」「人見知り」という言葉で自分の性格を形容し、それを改善したいという記述が少なからず見られたが、上記の記述からは意識の変容だけでなく、その態度にも変容が起きている様子が見て取れる。

②視野の広がり（柔軟性）

- ・違いを受け止めることの大切さを感じた。考え方の違いはとても面白いことだと思った。また今回の留学では二人部屋の寮だったので、日本人同士とはいえ20年間続けてきたそれぞれの生活スタイルを譲り合わなくてはならない。違いを受け止める柔軟性が少し身に着いた気がする。
- ・少しだが自分自身考え方が成長できたと思う。いろいろな考え方の違う人たちと交流する機会があった。
- ・この研修で出会った人は皆活発で行動力があり、物怖じして行動を起こさないことが実は自分を成長させるチャンスから遠ざける『もったいない』ことであるということを思い知った。そういう意味で自分の視野が広がったと思う。
- ・この研修に参加して、自分の考え方が少し変わったように感じます。今までは勉強していればとりあえず良い方向に向くから、勉強勉強という思いでいっぱいでも周りに目を向けられていなかったような気がします。でも、今回の留学で、学校で充実した授業を受け、その後韓国人の方や日本の友達と出かけて、帰ってきてからはしっかりと復習・予習をして寝る、

といったサイクルをしているうちに、遊びも勉強もすべてこなしていく1日って本当に充実していて楽しいなと思うようになりました。・・・勉強ばかりではなく、色々なところに時には一人で出かけて行ってみて、たくさん韓国の雰囲気を味わうことで、自分の視野を広げることができるんだ、という考えを持つことができました。

- ・日本にいる限り、考えることは日本人がすべてと思っていた。しかし、初めて海外に出てみて日本にいるだけでは視野に限度があると思いました。世界の広さを改めて知りました。
- ・地元を出て、世界を広げることの大事さを知った。
- ・お隣の国とはいえ、文化の違いがたくさんあり、日本との違いを感じることができ、世界の広さを改めて知ることができました。
- ・他の文化に触れることで改めて日本の文化を見直すきっかけとなった。

上記の記述から、参加学生は韓国語のクラスでの体験からだけでなく、研修の様々な側面からそれぞれ独自の学びがあったことが推察される。それによって視野の広がりや柔軟性を獲得していつているようである。

③発想の転換（前向きな姿勢）

- ・私の場合、トウミの方が忙しくてほとんど会えなかったために友達のトウミの方々に積極的についていくようにしました。最初はなんで自分だけこんなにトウミと連絡がつかなかったり一緒に出かけたりできないんだろう、というように落ち込んでいました。しかし、そのおかげで色々なトウミの方とお友達になれたという別の発想をすることができました。発想、考えの変換というものがこれまでの自分には欠けていました。ダメな方向にばかり考えてもっていつてしまうという感じでしたが、この留学では心を入れ替えていい方向に考える力というものを身につけることができました。そして、自分自身を見つめ直す良い機会にもなりました。
- ・これまでは人に影響されやすい性格で、人と自分を比べてしまって勝手に落ち込んでいました。しかしこの留学で、自分は自分じゃないか、という強い意志を持った自分になろうという決心がつけました。皆一緒ではないのだから、人は人、自分は自分、そして人の助言を取り入れながら自分らしく過ごそうという思いになりました。留学して、落ち込んでいる間の時

間がもったいないと思うようになりました。落ち込まないで他の発想に転換し、より充実した日々を送りたいと思うようになりました。

以上のように、研修参加前の自分について「消極的だ」「人見知りをする」「他に影響されやすい」というようなマイナスイメージを持っていた学生が、研修参加により「積極的」になり、「前向きな考え方」ができるようになったと述べている。3週間、異文化の中で暮らすという体験を通して、自分自身を見つめなおし、視野を広げ、発想の転換ができるようになっており、マイナス思考からプラス思考への転換が起きている様子がうかがえる。

③次の一步

- ・現地の人やトウミとの会話を通して、韓国語はもちろん、自分の英語力不足を痛切に感じたので、当面は英語の勉強を頑張ろうと思った。
- ・言語学習はあまり重要ではないと思っていたが、実際に留学することで本気で勉強しようと思った。
- ・留学の楽しさを知り、大学卒業までにすべきことがまだあると感じた。
- ・どのくらい韓国語が上達しているか確かめるためにも、またいつかこれと同じ研修を受けてみたいと思うようになった。その時は「中級」以上のクラスに入りたい。
- ・また韓国に行きたいと思った。韓国語をもっと勉強しようと思った。
- ・将来、もっと韓国人（韓国）と仲良くしていきたいと思った。また、私は〇〇〇を専攻しているので、今回の留学は将来の仕事に生かせると思った。
- ・勉強って頑張らないといけないなって再確認した。
- ・・・・これらの経験の中で、自分自身を色々な面から見つめなおすことができた。この留学を経験したおかげで、これからもっと韓国語を通したいいろんな活動ができるのでは、ということを考えるだけで楽しみです。
- ・自分が留学していて困ることがたくさんあったので、今長大にいる留学生の友達が困っていることがないかなとか、今まであまり考えていなかったことを考えるようになった。留学生の友達の友達などに積極的に挨拶をして、色々な人と友達になろうとするようになった。
- ・海外に対して壁を感じていたが、それが前よりもなくなった。
- ・韓国へ行く前は、1年もしくは半年海外へ留学するなんて全体いやだと思っ

ていたが、この研修に参加して、韓国ならば長期留学しても良いのではないかと思うようになった。

- ・1年留学を考えるための機会としてこの研修を受けましたが、留学したいと思う気持ちがより一層高まりました。

まず、語学力の必要性についての記述であるが、韓国語の研修ではあったが、初級レベルの講習であるため、現地での交流の際には媒介言語として韓国語に加え、英語を使用しなければならない場面も多々あったようである。特にトウミが日本語が全くできず、韓国語のみでの意思疎通が困難な場合、コミュニケーションの手段としての英語の必要性を強く感じたようである。また、逆にトウミが日本語が流暢な場合には自身の韓国語力を振り返り、もっと勉強しようと考えたり、今度は韓国語で話したいという願望が学習意欲につながっているようである。また、これが、1年間（半年）の交換留学も含めた再度の留学へのモチベーションの一つにもなっている。

また、記述の中には、留学ではなく、将来や今現在の日本での学生生活の中で留学経験を生かして行こうとする姿勢も見られる。研修後、実際に国際交流サークルに参加したり、留学生の会話パートナー⁵やチューターとして積極的に活動する学生も多く存在する。これらの学生たちは留学生との交流の楽しさを求めるだけでなく、韓国での経験から今度は自分が支援する側に回ろうという意識で臨む者が多い。

どちらにせよ、現地での学習や交流を通して得た実感を伴った気づきと学び、視野の広がり、これに韓国語力の向上も含めた実践的なコミュニケーション能力の向上が加わり、そこから自分自身に対する自信が生まれ、それが「次の一步」を踏み出す力となっているのではないだろうか。

4. 交換留学への足掛かり

自由記述の中にも語学研修や交換留学に関する記述が見られたが、韓国語研修の目的の一つとして、「1年間の交換留学への足掛かりとする」がある。質問紙調査の中でこの目的に関連する設問は以下の2つである。

- ①チャンスがあれば、また留学してみたいと思うか。

はい（28名） いいえ（2名）

- ②どんな留学に興味があるか（「はい」と答えた学生に対して）

今回のような短期語学研修（15名）
交換留学（半年もしくは1年）（12名）
その他（英語圏への1年間の語学留学）（1名）

「チャンスがあれば、また留学してみたいと思うか。」という設問に対し、「いいえ」と答えた学生は2名のみであった。「どんな留学に興味があるか」という設問に対して1番多かったのは「今回のような短期語学研修」（15名）であったが、「交換留学（半年もしくは1年）」と答えた参加者も12名に上った。研修参加者で実際に交換留学生（1年間）として韓国の協定校へ留学した学生は、2012年度：3名、2013年度：3名となっている。また、韓国の協定校が3月もしくは8月に主催するプログラム（3週間程度の韓国語学習と韓国入学生との交流プログラム）に参加する学生もいる。

このように、韓国語研修は参加学生の留学への意欲を高め、交換留学への足掛かりとなっていると言える。

5. 終わりに

以上の結果から、3週間という短期の語学留学であってもグローバル人材に必要とされる素養（積極性・行動力・視野の広がり・異なるものに対する柔軟性等）を育成する効果があることが示唆された。研修参加者にとって韓国語研修は実体験を通した主体的な学びの場としても機能していると言うことができるのではないだろうか。

本発表では韓国語研修の成果を分析・考察するにあたって、主として研修後の研修参加者に対する質問紙調査の結果を対象としたが、2012年度から調査方法にPAC分析を加えている。今後は学生の意識変容に着目し、PAC分析の結果と合わせて研修の成果を多面的に分析したいと考えている。

〔参考文献〕

永井智香子（2007）「第1回中国語海外短期語学研修実施報告―参加学生が書いたアンケートとレポートを中心に―」『長崎大学留学生センター紀要』第15号 pp.17-28
日本学生支援機構ホームページ 協定等に基づく日本人学生留学状況調査
http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/s_ichiran.html

- 松村真樹（2007）「第1回オーストラリア短期英語研修：単位認定と海外体験学習の両立を目指して」『長崎大学留学生センター紀要』第15号 pp.1-16
- 松本久美子（2002）「国際教育交流と大学の国際化―第2回A I E J /ユネスコ青年交流信託基金JAFSA国際交流担当者プログラムに参加して―」『長崎大学留学生センター紀要』第10号 pp.85-102
- 松本久美子（2008）「学生交流と大学の国際化―海外短期語学留学プログラム「第1回韓国語研修」を一例として―」『長崎大学留学生センター紀要』第16号 pp.97-110
- 松本久美子（2011）「韓国語海外短期語学研修の現状と課題―4年間の研修を振り返って―」『長崎大学留学生センター紀要』第19号 pp.35-42
- 松本久美子（2012）「第5回韓国語海外短期語学研修実施報告―改正点に焦点を当てて―」『長崎大学留学生センター紀要』第20号 pp.35-42

（留学生センター准教授）

-
- ¹ 日本学生支援機構のホームページ：協定等に基づく日本人学生留学状況調査報告の地域別・留学期間別日本人留学生数を見ると、2010年度1か月未満の派遣者数は13626人であったのが、2011年度には19374人、2012年度には24220人となっている。
- ² キョンヒ大学校国際教育院が開催している夏季短期課程は1次（8月）と2次（9月）があり、長崎大学は2次に参加している。
- ³ 単位認定レベルは「初級Ⅱ」以上となっていたが、参加者でそのレベルに達しないものが多数いたため、認定レベルについて再検討を行った。その結果、レベルを1段階落とし、「初級Ⅰ中間」から単位認定を行うこととした。
- ⁴ 韓国ではチューターのことをトウミと呼ぶため、質問紙にもトウミと表記してある。
- ⁵ 筆者は留学生と日本人学生のための会話パートナープログラムを運営している。また、チューター制度の担当者でもある。チューター制度は謝金を伴い、対象となる学生も限定されるが、会話パートナープログラムは友人として交流するプログラムであり、長崎大学に所属する全ての学生を対象としている。

(資料)

韓国語研修2013：研修後アンケート

＊これまでに海外渡航の経験がありますか。はい、いいえ

該当するものにチェック／○をしてください。

() 修学旅行 () 個人旅行 () 家族旅行 () ホームステイ
() 語学留学 () その他_____

I. 授業・課外学習について

・韓国語の授業（午前中）について

勉強したレベル：

クラスの人数：

＊以下の質問を読んで適当と思われる数字（1～5）に丸をするか、該当する数字以外を消してください。（5が満点で一番高い評価で、3が平均、1が最低の評価です。）

1. クラスのレベルは自分のレベルに合っていましたか。

5 4 3 2 1

2. クラスの雰囲気はどうでしたか。（クラスメートとの関係はどうでしたか）

5 4 3 2 1

3. 先生の教え方はどうでしたか。

5 4 3 2 1

4. この研修に参加して、韓国語が上達したと思いますか。

5 4 3 2 1

どんな点が特に上達したと思いますか。

・午後の文化クラスについて（5点満点）

5 4 3 2 1

どのクラスがよかったですか。

・現地学習（課外学習・フィールドトリップ）について（5点満点）

5 4 3 2 1

- ・放課後や週末はどうしていましたか。

- ・トウミについて

トウミの専門・学年・性別（ ）

1. 1週間に何回ぐらい会いましたか。何時間ぐらい会いましたか。

2. トウミとの関係はどうでしたか。(5点満点)

5 4 3 2 1

トウミとどんなことをしましたか。

3. トウミがいて良かったですか。(5点満点)

5 4 3 2 1

II. キョンヒ大学の全般的な受け入れ態勢・サポート体制について (5点満点)

5 4 3 2 1

どんな点が良かったですか。改善してほしいことがありますか。

- ・寮はどうでしたか。(5点満点)

5 4 3 2 1

III. 研修全般について (5点満点)

1. この研修に参加して、韓国や韓国文化に対する理解が深まったと思いますか。

5 4 3 2 1

2. この研修は日本や日本文化を見直す（新たな視点で見る）きっかけになりましたか。

5 4 3 2 1

3. この研修に参加して、自分の視野が広がったと思いますか。

5 4 3 2 1

4. この研修は、自分自身を振り返ったり、将来について考えたりする機会になりましたか。

5 4 3 2 1

5. 研修参加前に期待していたことは達成されましたか。

5 4 3 2 1

どんなことが達成できましたか。期待と実際はどうでしたか。具体的に書いてください。

6. この研修に参加することは価値がある／参加してよかったと思いますか。

5 4 3 2 1

それはどうしてですか。

7. この研修を他の学生に推薦できますか。(5点満点)

5 4 3 2 1

8. 研修参加前の韓国・韓国人に対するイメージと今では何か変わった部分がありますか。

具体的に書いてください。

9. 留学したからこそ体験できた・実感した・気づいたと思うことは何ですか。具体的に書いてください。

10. この研修に参加して、あなた自身の考え／考え方や行動/態度で変化したと思うことがありますか。それはどんなことですか。

11. チャンスがあれば、また留学してみたいと思いますか。

はい ・ いいえ

「はい」と答えた方に質問します。どんな留学に興味がありますか。
下記の中で興味のあるものに丸をつけてください。

() 1. 今回と同じような短期語学研修

() 2. 長崎大学の協定校への交換留学(半年もしくは1年)

() 3. その他(具体的に)

12. 3週間の間で、印象深かったことは何ですか。
13. 3週間の間で、楽しかったことは何ですか。
14. 3週間の間で、嬉しかったことは何ですか。
15. 3週間の間で、大変だったことは何ですか。
16. 3週間の間で、悲しかったことは何ですか。
17. 3週間の間で、何か困ったことがありましたか。どんなことですか。
18. 研修参加中に、どのぐらいのお金が必要でしたか／必要だと思えますか。

(寮費・教科書代等を除く)_____

19. 出発前の準備は十分でしたか。どんな準備をしていけばよかったと思えますか。
20. Facebookのグループは役に立ちましたか。(5点満点)

5 4 3 2 1

***最後に来年参加する人に対して、何かアドバイスをお願いします。**

***その他、何か感想・意見等があれば、自由に書いてください。**

ご協力、ありがとうございました。 留学生センター 松本

***このアンケートの結果は、来年度以降の研修の一層の充実のために、統計的に処理されます。個人的な情報を利用することはありません。**